



今月の大植びと

菊池 晃総さん

(38歳・理容師、中須賀大神楽)

郷土芸能「中須賀大神楽」保存会の事務局次長を務める菊池さん。本業は理容師ながら、月に一度ラーメン屋さんに変身。多才ぶりを見せます。

次の世代に受け継ぐための環境づくり

郷土芸能団体の中では、どんな役割をされていますか？

菊池さん(以下菊)―主に連絡業務や、対外的な調整、会計などです。中堅の世代になってきて、ただ踊るんじゃない、次の世代に受け継ぐ環境づくりの世話役だと思っちゃっています。

大変な事などはありますか？

菊―今はライングループな



町内のレストランで、月に1度だけラーメンを出す人気の「鮭節ラーメン」

どで連絡できるので、ずいぶん楽になりました。他に気になるのは、どこの団体でも同じですけど、子供の参加、特に小学生がだいぶ少なくなりました。中学に上がると部活などで神楽にも出られなくなってしまうので、できれば小さいうちにどんどんやってほしいです。

それぞれ好きでやっていることが、つながっていいね。郷土芸能や消防団、はたまたラーメン屋さんなど、本業以外にもたくさんの事されている菊池さんですが、この町に思うこと、目指すものは何でしょうか？

菊―正直、大層な考えを持ってやっていっているんじゃないです。でもそれぞれ自分が好きでやっていることがつながっていいね、良い町になるんじゃないかと思えます。だから自分は、フットワークを軽く、付き合いを大事に、いつも思っています。ラーメンもたまたま話の中で誘われて、やってみようかな。たいがい着地点は考えないんです(笑)なるほど。着地点を考えたことが結果的に行動力につながっているんですね。

大植びと クロストーク Cross talk

9月号 鈴木 藤洋さん
10月号 菊池 晃総さん

お二人は共通して、若い世代の経営者ですが、職種上の違いや聞いてみたい点もあるかと思えますが？

鈴木―自分の職業(ガス小売業)からすると、(床屋さん)は)技術料の部分が大きいので、利益率というかわらやましいなと思うことはあります。

菊―確かに言われるとそうですね(笑)。でもお客さんが来てくれないと。固定収入が無いので。

鈴木―そうだね。それにお客さんとも長い時間話さなきゃならないし、難しい仕事だよ。

菊―新しい情報や技術も仕入れなきゃいけないので、同業者の勉強会などに行つて知識やヒントを得ています。

鈴木―うちの業種もそこは一緒だね。いろいろ勉強していかないと。付き合いも増えて大変だけど、タッグを組んで何かしませんか？

鈴木―キッチンカープロジェクトでメニュー開発をやつてほしいです。B級グルメのような、目玉になるものをつくってほしい。

菊―鮭の中骨や鮭節を使ったラーメンをキッチンカーでも出した事があります。うまくいっているものができたらいいですね。

